

レコードは時間旅行も楽しめる

レコードよ、歌謡曲よ、東京よ

東京の街をレコードとともに歩く。

そんな楽しさを綴ったのが『東京レコード散歩』の著者、鈴木啓之さんだ。ジャケットの写真も往時の街の空気を醸し出し、いまとの違いを楽しむ。東京は歌謡曲の街、レコードの街でもあった！

アーカイヴァー
鈴木啓之

●すずき・ひろゆき 1965年東京都生まれ。ライター・プロデューサー。昭和の歌謡曲、テレビ、映画などがテーマ。CDやDVDの監修・解説も手がける。著書に『昭和歌謡レコード大全』（白夜書房）など。

歌謡曲で東京をめぐる

——「アーカイヴァー」として、自身が集めてこられたレコードを使ったださまざまな仕事を展開しています。レコードとの出会いはどのようなものだったのでしょうか？

中学生ぐらいだった一九七〇年代後半、ミュージシャンの大瀧詠一さ

んのラジオ番組「ゴー・ゴー・ナイアガラ」を聴いたことが、レコードにめざめたきっかけの一つです。もともと歌謡曲が好きだったので、クレイジーキャッツや小林旭など、大瀧さんがかけるマニアックな歌謡曲に感銘を受けまして、「こんな面白い音楽があったのか」と驚きのめり込んでいったと思います。そして新譜のレコードより中古レコー

ドが安く買えるということを知り、コレクションを始めるようになりました。

——中学生で、中古レコード屋に「買い出し」に行かれていたのですか？

生まれが東京・中野なので、自宅近くのレコード屋にはよく行きました。新宿西口の中古レコード店「トガワ」、銀座の数寄屋橋シヨッピン

グセンターにあった「ハンター」へも遠征しましたね。

——レコードを集める基準は？

特にはつきりと決まっていまして、買ったレコードは、影絵作家の藤城清治さんがやっていたテレビ番組「木馬座アワー」のキャラクター、カエルのケロヨンの主題歌でした（笑）。とにかく大瀧さんが勧めていた曲や、大ファンだった加山雄三、グループ

サウンズ、好きなテレビの主題歌など、ジャンルはさまざまです。そのうち筒美京平さんなど、好きな作曲家のレコードをコレクションするようにもなっていましたね。一方、荒井由実（松任谷由実）、サザンオールスターズ、松田聖子などもちろん聴いていましたから、学校での音楽の話題にもだいたいいついでに聞きたよ（笑）。

——どんなときにレコードを楽しんでいたのですか。

居間にレコードプレーヤーとステレオがあったので、そこでじっくり聴くのが日課でした。それから実家が

喫茶店で、店にもプレーヤーがあったのです。当時は有線放送もないので、レコードで直接、店内に音楽を流していた。喫茶店のBGMに適していた、インストゥルメンタルだと記憶していますが、まあ、小さいころからレコードに慣れ親しんでいたという点もアーカイヴァーになったきっかけだったのかもしれない。

——銀座や渋谷、東京タワーなど、歌謡曲に出てくる東京の街の風景と、それに関するレコードを紹介した『東京レコード散歩』（徳間書店）は、鈴木さんの好みの集大成ですね。

音楽サイト「歌謡曲リミテッド」で書いていたコラムを加筆修正したものです。自分の持っているレコードコレクションの中から思い出深い街の曲を選んで解説しています。

——東京はいっぱい歌われていますからね。東京の風景をめぐる、気



昭和の歌謡曲の舞台となったあの街、この街を訪ねた『東京レコード散歩』（発行・東京ニュース通信社 発売・徳間書店）